

【学校教育目標】

心豊かで たくましく生きる生徒の育成

【本校の現状】

- ・中1男子は、長座体前屈で県の平均を下回っている。
- ・中2男女ともに、反復横とびで県の平均を下回っている。
- ・中3男子は上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とびで県平均を下回っている。
- ・R7 年度県平均値と学校平均値との比較から中1男子に運動が苦手な生徒が多い。
- ・全校生が1000名を超えるマンモス校である。

【課題】

- ・四国で随一の生徒数を誇るが、屋内運動場、屋外運動場ともに市内の他中学校と同等程度の施設しかなく、活動場所の確保が難しい。保健体育の授業についても1時間の中に4クラスが授業する時間割となっており、クラスによって活動場所の優先順位をつける必要がある。したがって、実技の種目によっては連続して学習することができない。
- ・生徒は、運動部活動にも積極的に取り組んでいる。しかし、各部の部員数が多く活動場所が限られるため、部員全員が同一の活動に取り組めず、技術習得のための十分な活動機会が得られていない。
- ・部活動に所属していない生徒の増加やスマートフォンの急速な普及等によって、運動する機会が減少している。運動の効果や必要性を認識し、生活の中で習慣化していくために、学校全体として家庭とも連携を図る必要がある。

保健体育の授業での取り組み

- ・新体力テストの結果から、毎授業の中で不足している体力についての補強運動を取り入れる。
- ・授業で培った資質能力を生かし、体育活動を通して心身の健全な発達と健康や運動に対する意欲や関心を高める。
- ・授業の中で活動時間を多く設けることで様々な運動に取り組むことができるようにする。

運動部活動や家庭との連絡

- ・新体力テストの結果を各顧問と共有し、練習内容に生かすようにする。
- ・自分が不足している体力要素について、向上させるためのトレーニング計画と実践を長期休業中の課題として取り組ませる。
- ・生活リズムチェックシートを活用することで、保護者の協力のもと家庭での食事や睡眠等の生活習慣を整えさせる。

【目標】

- ・「運動する『時間』『空間』『なかま』」を生み出すことにより、運動機会を確保する。
- ・昼休みに運動場を開放し、積極的に運動をするように促す。
- ・生徒増加によって活動する場の確保が難しい中で、参加した生徒が満足感を得られるように、部活動の充実を図る。
- ・家庭・地域との連携による運動習慣・生活習慣改善の取組を推進する。